



「研究室紹介」開始にあたって（研究室紹介）

山崎，裕太

(Citation)

神戸大学史学年報, 39:1*-1*

(Issue Date)

2024-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100491657>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100491657>



「研究室紹介」開始にあたって

山崎 裕太

(二〇二三年度編集委員長)

本号からの新たなコーナーとして「研究室紹介」を設けることとなった。新コーナー設置につき、その趣旨と意図を簡単に説明しておきたい。

研究室紹介では日本史・東洋史・西洋史各専修のゼミを、毎号順々に紹介していく予定である。本号では日本史は古市晃教授、東洋史は昨年度をもって退官された緒形康教授、西洋史は佐藤昇教授のゼミを紹介するが、次号はまた別の教授のゼミが取り上げられるであろう。具体的には、各ゼミでどのような演習を行っているのか、使用している史料やテキスト、あるいはゼミの雰囲気を紹介する。これにより、OB・OGをはじめとする読者の皆様に現在の神戸大学史学講座の様子を知ってもらえれば幸いである。そして、数号後に一度紹介されたゼミに再度順番が回ってきたとき、その間のゼミの進捗やかつてのゼミの様子を知る手掛かりとなるであろう。例えば、今回紹介する日本古代史ゼミでは円仁の『入唐求法

巡礼行記』を講読しているが、次の紹介時には円仁の旅路はどこまで進んでいるのだろうか。このような楽しみ方もできるだろう。

神戸大学史学研究会は在学生とOB・OGを中心に構成され、学術団体であると同時に学内の同窓団体としての性格を有する。例年、大学院生を中心に運営・活動を行っているが、近年は大学院生数が減少し、コロナ禍も相俟って、会を十分に盛り上げることができていないという課題に直面している。その打開策として会員である学部生を積極的に取り込み、会の活動に参加してもらうことが必要だと考える。これは史学研を盛り上げるだけでなく、史学講座の各専修間の交流を活発にするためにも重要であろう。今回新設する「研究室紹介」は、学部生に史学研の活動に参加してもらう一つの場とすることを意図している。第一回目ということもあり執筆者四名のうち二名は院生（修士、執筆時）であるが、残りは学部生（執筆時）に執筆を依頼した。次号以降でも学部生に執筆してもらうことで、積極的に史学研の活動に参加してもらえよう取り組んでいきたい。